

## 審査について

### 1 審査員の視点

過去の採択審査における審査員の視点は主に以下のようなものが挙げられます。

- ・ 自社の投資機機会等の創出だけでなく、スタートアップや起業家、エコシステムへの還元の視点が重要（協定金目当てだけに見えてしまう）
- ・ 自社事業の延長の色の濃い取組は、協定金の必要性が薄く感じられる（評価しづらい）
- ・ 民間では支援が十分に行き届かない領域や取り組みづらい内容に協定金を活用してチャレンジしてほしい
- ・ アウトカムは視座高くチャレンジングな内容に設定してほしい
- ・ 取組のビジョン、課題、その課題に対するソリューションとしての支援内容というロジックが重要
- ・ これまでの取組実績から導出する仮説とそれに対する有効性のある取組について、仮説の検証の位置づけで協定金を活用して実施するというのは用途の一つ
- ・ 海外展開について、単にネットワークを有するだけと思われる内容は評価できない（進出支援国の蓋然性や取り組みの有効性の説明なども必要）
- ・ 単にメンタリング、マッチングを行うという提案ではなく、企画としての課題、コンセプト設定や支援内容の質を評価したい
- ・ 協定期間中に「創業数：〇件」という成果を達成することも意義があるが、協定期間終了後も継続性を保ち、ユニコーンの創出につなげる仕組みの構築、中長期的な視点での取り組みや質にこだわった取組にも期待したい

### 2 社会にとっての新規性、独自性

応募要件として協定事業者にとっての新規性を設定していますが、審査の観点では、提案内容に社会的な新規性、独自性があることが望ましいです。

必要条件：協定事業者にとっての新規性のある取組

十分条件：社会にとっての新規性、独自性のある取組（これまでになかった視点での支援や取組内容）